

エリザベト音楽大学コンサートシリーズ
スピリチュアルコンサート

トマシュ・リッテル
フォルテピアノリサイタル

公益社団法人日本産業退職者協会 広島支部 留学生支援コンサート

2025. **6/29** (日)

15:00開演 (14:30開場)

エリザベト音楽大学 セシリアホール
(広島市中区幟町4-15)

主 催：エリザベト音楽大学

共 催：公益社団法人 日本産業退職者協会広島支部



本日の使用楽器

アントン・トマシェク (ウィーン)

- ・ 製作(推定)1840年前後
- ・ 80鍵盤(6オクターブ8キー)
- ・ 跳ね上げ式アクション
- ・ ピッチA430Hz



この楽器は、旧師 光井安子先生より1996年に寄贈いただきました。

Program

ピアノ・ソナタ 第6番 ニ長調 KV 284 (約20分)
Sonata No. 6 in D Major, KV 284

W. A. モーツァルト
W. A. Mozart

ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27の2「月光」(約16分)
Sonata No. 14 in C-sharp Minor, op. 27, no. 2 "moonlight"

L. v. ベートーヴェン
L. v. Beethoven

— 休 憩 —

《無言歌集》より (約10分)
Lieder ohne Worte

F. メンデルスゾーン
F. Mendelssohn

〈デュエット〉 作品38の6
“*Duetto*”, op. 38, no. 6

〈羊飼いの嘆き〉 作品67の5
“*The shepherd's complaint*”, op. 67, no. 5

〈巡礼の歌〉 作品67の3
“*Song of the pilgrim*”, op. 67, no. 3

バラード 第1番 ハ短調 作品23 (約10分)
Ballade No. 1 in C Minor, op. 23

F. ショパン
F. Chopin

創作主題による32の変奏曲 ハ短調 WoO 80* (約11分)
32 Variations on an Original Theme in C minor, WoO 80

L. v. ベートーヴェン
L. v. Beethoven

*スタインウェイ使用



トマシュ・リッテル
Tomasz RITTER

2024年ブリュージュ国際古楽コンクール、および2018年第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクールで第1位受賞。

1995年ポーランドのルブリン生まれ。ワルシャワのシマノフスキ国立音楽学校にてイリーナ・ドンブロフスキに師事、優秀な成績で卒業した。14年からモスクワ音楽院に留学し、ミハイル・ヴォスクレセンスキーにピアノを、アレクセイ・リュビモフにピアノとフォルテピアノを、マリア・ウスペンスカヤとアレクセイ・シェフチェンコにチェンバロを師事。またハンブルク音楽演劇大学にてフベルト・ルトコフスキの下でピアノとフォルテピアノを学んだ。

ソリストとしてポーランド放送交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、18世紀オーケストラ、バッハ・コレギウム・ジャパン等と共演。サントリーホールでのチェンバーミュージック・ガーデン（19年）、カーネギーホールでのA.ルービンシュタイン記念リサイタル（19年）等に出演、欧米や日本で活動を広げている。24年には、ユリアンナ・アヴデーエワ、川口成彦とともに〈The Real Chopin×18世紀オーケストラ〉日本ツアーでソリストを務めた。2023年10月、第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクールオープニングコンサートにマルタ・アルゲリッチ、ブルース・リウ、川口成彦とともに招かれ、ピリオド楽器によるベートヴェン《ピアノ協奏曲第3番》を演奏した。

HIP (Historically informed performance 歴史的情報に基づく演奏) はリッテルの活動において重要な位置を占めており、マルコム・ビルソン、アンドレアス・シュタイアー、トビアス・コッホらの影響を受け、ポール・マクナルティやエドヴィン・ブンクらピリオド楽器のコレクター／修復家とも交流を持つ。

Program Note

ピアノ・ソナタ 第6番 ニ長調 KV 284 *Sonata No. 6 in D Major, KV 284*

W. A. モーツァルト
W. A. Mozart

古典派の時代を代表する作曲家、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756–1791)が10代終わりに書いた作品で、ピアノ・ソナタとしては最初期のものである。この頃彼はミュンヘンに滞在しており、2ヶ月にも満たない短期間のうちに6曲のピアノ・ソナタを書き上げた。本日演奏される第6番はその最後の曲にあたり、最も長大で華やかなものとなっている。当時の楽器の可能性を遺憾なく発揮した作品で、6曲の中でこの曲だけが生前に出版されたことも、本作品の重要性を示している。

ミュンヘンの音楽愛好家、デュルニッツ男爵の依頼によって書かれたため、「デュルニッツ・ソナタ」とも呼ばれる。

第1楽章 Allegro ニ長調 4分の4拍子 ソナタ形式

交響曲を思わせる華やかな和音で印象的に始まる。主題の堂々としたエネルギー的な推進力と、展開部の緊張感によって終始聴き手を引き込む楽章である。

第2楽章 Andante イ長調 4分の3拍子 ロンド形式

Rondeau en Polonaise (フランス語で「ポロネーズ風ロンド」を意味する)と書かれているが、一般的なポロネーズのリズミックなイメージとは異なり穏やかな楽章である。冒頭の優美な主題は何度も繰り返されるが、毎度様々な装飾が施されることでまるで変奏のようにも感じられ、第3楽章へと繋がっていく。

第3楽章 Andante ニ長調 2分の2拍子 変奏曲形式

主題と12の変奏から成る大規模な楽章である。モーツァルトのピアノ・ソナタにおいて変奏曲が取り入れられたのはこの作品が初めてである。各変奏は性格が大きく異なり、技巧的なものから叙情的なもの、即興的なものまで多彩に展開され、最後は輝かしく締めくくられる。

(北川綾音)

ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op. 27-2 「月光」

L. v. ベートーヴェン

Sonata No. 14 in C-sharp Minor, op. 27, no. 2 "moonlight"

L. v. Beethoven

モーツァルトの14年後にドイツのボンに生まれたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)は、ウィーンに移ってから晩年までの約30年間に、32曲のピアノ・ソナタを作曲した。「月光ソナタ」として知られる第14番は、1801年に書かれた作品で、「幻想曲風ソナタ」という副題がつけられており、従来のソナタ形式にとらわれない自由な構成が特徴である。「月光」の呼び名は、ロマン派の詩人ルートヴィヒ・レルシュタープが、スイスのルツェルン湖の月光ゆらめく波に浮かぶ小舟に例えたことに由来している。

第1楽章 アダージョ・ソステヌート 嬰ハ短調 2分の2拍子 ソナタ形式

絶えず流れ続ける3連符の分散和音の上に、静的で抒情的な旋律が提示される。第2主題がさりげなく出され、短い展開部を経て第1、第2主題が回帰する。終始弱音で弾かれる沈んだ雰囲気の中に、美しく幻想的な印象を与える楽章である。

第2楽章 アレグレット 変ニ長調 4分3拍子 3部形式

第1楽章から一転した、明るく軽快な性格の楽章。優美に跳ねるようなリズムとシンコペーションのリズムが特徴的に使われた、素朴で遊び心のある曲調は、嵐が来る前のひとときの穏やかさのようにも感じられる。

第3楽章 プレスト・アジタート 嬰ハ短調 4分の4拍子 ソナタ形式

第1、第2楽章とは全く異なる情熱的な音楽が、緊張感と推進力をもって展開する。嵐のように激しく分散和音でかけ上がる第1主題は、第1楽章の3連符の動機を展開させたものとなっている。属調で現れる第2主題は、第1主題とは対照的に、流れるような旋律である。コーダは大規模なもので、第1主題の上行アルペジオに続いて、減七和音が劇的に鳴らされ、低音部に第2主題の旋律があらわれる。その後、激しく上下行するアルペジオが繰り返され、カデンツァ風のパッセージの後に最初のテンポに戻る。最後は両手のユニゾンによるアルペジオで、曲が締めくくられる。

(竹下美玖)

《無言歌集》より
Lieder ohne Worte

F. メンデルスゾーン
F. Mendelssohn

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家フェーリクス・メンデルスゾーン(1809-1847)の作品で、原題の *Lieder ohne Worte* は「歌詞をもたない歌曲」を意味している。無言歌集は各6曲ずつの計8集からなり、全48曲が収められている。メンデルスゾーンはこの曲集の中で、器楽曲による「言葉のない歌曲」として情景や心象風景を描き出した。ピアノが教養として普及し始めていたこともあり、親しみやすい作品として当時から多くの人々に愛されてきた。

〈デュエット〉作品38の6 *Andante con moto* 変イ長調 8分の6拍子

この曲集の中には標題をもっている作品が多いが、メンデルスゾーン自身がつけた標題は5曲のみで、〈デュエット(二重唱)〉はその中の1曲である。

16分音符の音型の上に2つの美しい旋律が交互に現れ展開し、次第に2声部が交わり声高らかに歌う。2つの旋律の掛け合いはまるでふたりが語り合っているようで、ロマンティックな作品である。

〈羊飼いの嘆き〉作品67の5 *Moderato* ロ短調 4分の3拍子

冒頭はこれから語る物語の内容を暗示するような物静かで暗い雰囲気 of the melody から始まる。中間部では豊かさのある温もりを感じさせるが、それは束の間の喜びであったかのように去っていき、最後は冒頭の旋律が再び現れ、次第にもとの世界へと静かに消えていく。

〈巡礼の歌〉作品67の3 *Andante tranquillo* 変ロ長調 4分の2拍子

左右の手で同じ音をずらして重ねる下行形の旋律が特徴的で、エコーのようにも聴こえる優しく自然な音の広がり表現しているようである。曲の構成は非常にシンプルでありながら、繊細な和声進行や温かく安心感のある旋律により、心に沁みわたる深みを感じさせる作品となっている。

(大崎ももか)

バラード 第1番 ハ短調 作品23 *Ballade No. 1 in C Minor, op. 23*

F. ショパン
F. Chopin

フレデリック・ショパン(1810-1849)はロマン派を代表するポーランド出身の作曲家、ピアニストである。ショパンの作品はピアノの独奏曲が多く、繊細で複雑な和声や詩情溢れる旋律、自由なテンポで演奏するルバートなどが特徴である。また、マズルカやポロネーズなどのポーランドの民俗音楽を取り入れた作品を生み出した。

その中でもバラードは自由度が高い作品である。元々バラードは中世の吟遊詩人が詠った詩、またはそこに音楽や踊りが付けられた歌曲のことであったが、ショパンは器楽作品として初めてバラードを作曲した。全4曲書かれたバラードはポーランドの詩人であるミツキエヴィッチの詩が基になっており、物語的、文学的な要素を持つ音楽である。

バラード第1番は自由なソナタ形式となっており、第1主題と第2主題が形を変えて3回出てくる。

冒頭の序奏はレチタティーヴォ風で、最初に変イ長調の主和音がアルペジオで奏されるが最後はト短調の属七の和音となり、衝撃的な和声の変化が印象に残る。そこから提示される第1主題はト短調となっている。静けさと緊張感が一貫して続き、移行部の激しい感情的な部分との対比が強く感じられる。

一方で第2主題は、変ホ長調で穏やかな雰囲気を持つが、再現されるたびに情熱的に変化していく。曲の最後は激しいコードで幕を閉じる。

(新田莉子)

創作主題による32の変奏曲 ハ短調 WoO 80

L. v. ベートーヴェン

32 Variations on an Original Theme in C minor WoO 80 L. v. Beethoven

この曲はベートーヴェンの作曲年代区分上の中期に属する作品で、彼が36歳の時(1806年)に作曲された。作品番号はなく、WoO(Werk ohne Opuszahl)とは作品番号がつけられていない楽曲の整理のためにつけられている認識番号で、彼の死後の楽曲整理の際にWoO80と付番された。

主題と32の変奏があり、第31変奏までは主題と同じ8小節で進み、第32変奏のみ50小節にわたって展開する。主題とほとんどの変奏はハ短調、第12変奏から第16変奏のみハ短調の同主調であるハ長調で書かれており、対になっている変奏もいくつか存在する。高い技巧を要する部分も多い変奏曲である。

主題：たった8小節しかないが、緊張感に満ちたインパクトのある主題である。

第1、2、3変奏：それぞれ右手、左手、両手の16分音符でのアルペジオで構成されている。

第4変奏：緊張感は保ちつつ、内声部の3連符の動きが特徴的で、ミステリアスな雰囲気を持つ変奏である。

第5変奏：ミステリアスさに加えてため息のような音型が優雅さを添えている。

第6変奏：突如ffではじまり拍頭にsfを持ったまま音楽が進んでいく。情熱的な変奏。

第7、8変奏：再びミステリアスな変奏に戻る。第7変奏はオクターヴによる下行音型を特徴としている。

第9変奏：揺れ動く下の2声が不安定さを醸し出し、寂しさも加わる。

第10、11変奏：32分音符の速いパッセージにオクターヴによる下行旋律が添えられる激しい変奏。

第12変奏：主題の素材がそのままハ長調に置き換えられ、柔らかな雰囲気を持つ。

第13、14変奏：第12変奏の旋律が付点で奏され、それに右手の16分音符で可愛らしさが足される。

第15、16変奏：オクターヴで旋律が足され非常に動きのある変奏となっている。

第18変奏：速い上行音階が主体の変奏。

第19変奏：fとpが交互に繰り返され、最後は下行しながらクレッシェンドする。

第20、21変奏：速い3連符の伴奏の上で旋律が和音で弾かれるパッセージが登場する。

第22変奏：動機が左右の手でオクターヴで模倣されるシンプルな変奏。

第23変奏：ppによる静的な緊張感のある変奏。

第24変奏：第1、第2変奏と近親性があり、スタッカートの3連符で繊細に変奏される。

第25変奏：装飾音に特徴のある経過的な変奏。バスの構成は第4変奏とほとんど同じである。

第26変奏：3度の和音を基本とし、幅広い音域で構成される厳格かつ激しい変奏。

第27変奏：同様に3度を基本とするが、さらに激しさを増し、荒々しさも感じられる。

第28変奏：分散和音の伴奏の上に旋律が出される、シンプルで美しい変奏。

第29変奏：激しく上下行する速い3連符の分散和音を中心とした技巧的な変奏。

第30変奏：コラール風の変奏。

第31変奏：主題が再帰し、低音部のうごめきは最後の変奏へ向けて力を蓄えているかのように響く。

第32変奏：ほとぼしるような冒頭から、ffからppまで強弱の幅のある劇的な変奏。厳格さを持ったまま閉じられる。

(小島風沙)

Information

エリザベト音楽大学では様々なコンサート、イベントを予定しています。
詳細はHPや公式SNSで紹介いたします。どうぞお楽しみに。

コンサート

2025年

7/27(日) エリザベト音楽大学合唱団《被爆80年イタリア・ドイツ公演》
壮行演奏会 ピースコンサート

9/ 6(土) 親子コンサート(東広島公演)

9/10(水) 親子コンサート(広島公演)

9/28(日) エリザベトコンサートin宮崎

11/ 1(土) 第84回定期演奏会

12/ 6(土) チャリティークリスマスコンサート

12/14(日) 第九ひろしま(合唱出演)

12/19(金) コンサートシリーズ

2026年

1/25(日) エリザベトコンサート in 東広島

3/ 5(木) 大学院春季新人演奏会

3/ 8(日) 卒業演奏会

6/27(土) 広島交響楽団 協演演奏会Vol.5



イベント

2025年

7/ 6(日) 第2回オープンキャンパス

8/17(日) 第3回オープンキャンパス

10/12(日) 秋のオープンキャンパス

12/21(日) 広島学院・ノートルダム清心・
エリザベト音楽大学チャリティイベント
クリスマスの集い



2026年

3/14(土)・15(日)
春のオープンキャンパス
“スプリングフェスティバル”



※演奏会やイベントはやむを得ず変更になる場合がありますので、
最新の情報をエリザベト音楽大学のホームページでご確認ください。

エリザベト音楽大学初のラジオ番組

エリザベト音楽大学
×
広島FMラジオ

エリザベト音楽大学
presents
ミューズの扉



エリザベト音楽大学 presents

ミューズの扉
knockin' on the
music door

【放送日時】 毎週日曜 午後6時30分～6時55分

【放送局】 広島エフエム放送株式会社

ラジコ(radiko)でも
放送後1週間
無料で聴くことが
できます



番組テーマ音楽は
世界平和記念聖堂
で収録!

2025年4月6日より、
広島エフエム放送株式会社とコラボ
レーションし、ラジオ番組を開始いたし
ました。

番組では、本学教員や学生らが出演し、
音楽活動や音楽の魅力などについて
熱く語ります。

グレゴリオ聖歌を紹介するコーナー
「今日のちゃんとグレゴリアンチャント」
もどうぞお楽しみに♪

エリザベト音楽大学
学事部企画・広報
082-221-0918
<https://www.eum.ac.jp/>

番組公式
インスタグラム



番組公式
ホームページ



さあ、
新しい自分に
会いに行こう。

聴く人も、奏でる人も、歌う人も。
すこし深く、その先へ。
これまでにない「自分」と出会える、
これまでにない「音楽」の体験をあなたにも。

ヤマハミュージック 広島店

〒730-8628 広島県広島市中区紙屋町1-1-18

TEL. 082-244-3666 (代) FAX. 082-244-3716

営業時間／11:00～18:30 定休日／火曜日(祝日の場合は営業)

※契約駐車場はございません。お近くの駐車場をご利用ください。

<https://retailing.jp.yamaha.com/shop/hiroshima>



ヤマハミュージック 広島店

検索



株式会社ヤマハミュージックジャパン